

CMS で管理する日本語学習サイト JPSOC.NET の教材

WEB teaching materials for the JPSOC.NET site managed with CMS

伊津 信之介* 古川 修士* 中村 郁夫** 佐々木 瑞枝***

Shinnosuke Izu* Shuji Furukawa* Ikuo Nakamura** Mizue Sasaki***

東海大学福岡短期大学* (有) シージーラボ** 武蔵野大学***

Tokai University Fukuoka Junior College* CGLabo Ltd.** Musashino University ***

<あらまし> 演者らは「日本語および日本社会を理解させるためのインタラクティブなマルチメディア教材開発」と題した2005年度の科学研究費補助金にてJPSOC.NETサイトを構築運用した。新たな取り組みとしてマルチメディア教材を手軽に制作できるフラッシュWEB教材開発と日本語教育への適用を試みてきたので研究成果の一部を報告する。

<キーワード> CMS 日本語学習 マルチメディア教材 フラッシュ WEB教材

1. X O O P S は最も一般的な CMS

演者らは「日本語および日本社会を理解させるためのインタラクティブなマルチメディア教材開発」と題した2005年度の科学研究費補助金にてJPSOC.NETサイトを構築運用した。このプロジェクトでは、CMSとして注目を浴びていたX O O P Sをサイト構築・運用・管理に用いた。X O O P Sを用いた第一の理由は、利用者の個人認証とグループ管理が標準で装備されている点である。これによって利用者の母国語や日本語活用能力に応じたサポートが可能になった。第二の理由は、音声やアニメーションなどを使ったマルチメディア教材を管理運営するソフトウェア(モジュール)が存在した事による。このモジュールはWF section というテキスト管理の高機能ソフトウェアである。

2007年にはX O O P Sはより一層機能面と安定性を増したX O O P Scubeになった。このような状況は海外X O O P Sでも同様の動きが見られる。とりわけWF sectionの開発者が中心となって進めていると思われるsmartfactoryでは、WF sectionはSmartSectionとしてより一層複数データ形式の処理が容易になっている。

2. J P S O C . N E T

JPSOC.NETは、日本社会と日本語を学ぶ留学生に対して、双方向型の教材を開発することを目的とした。このときに、現在のICTネットワークで浸透し始めているオープンソース型の教材を提供

することの実践的研究を行った。オープンソースの教材は、アクセスが自由に行えるだけでなく、プログラムのソースコードが公開されており、自由に自分で教材を書き換えることが可能である。双方向を確保するためには当然オープンな参加と教材の書き換えが行われることが必要であるが、それをどのように行うかについてのもっとも望ましいモデルを模索した。

教材は佐々木らの「日本社会再考」の文章を用いた。トップページから以下のタイトルにジャンプし、学習をすすめる。

How interesting!
もっと日本を知ろう!!

世界のどこからでもアクセスできて、丁寧な指導が受けられます。みなさんのチャレンジをお待ちしています。



1. 日本を知る1
Learn the Japanese Society

2. 日本を知る2
Learn the Japanese Society

3. The Vertical Society
Japanese Society and Life

How do you think?
日本社会について考えよう!!

問題の解答を書き込むと日本の先生が添削し、ここに表示される日本語学習サイトです。世界中のどこからでもアクセスでき、丁寧な指導が受けられます。



1. 東京一帯集中
「東京がすべて」という現状

2. 使い捨て消費は美德か

3. 相次ぐごみ洗濯機はどこへ捨てるの

Let's try!
日本語の問題を解こう!!

問題の答えや意見を書き込んでください。日本ではあなたの答えを添削して表示します。



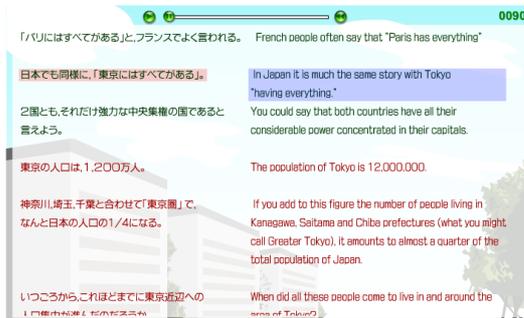
1. 男言葉・女言葉
言葉に表れるジェンダー

2. 部屋探し
東京の郊外に住む

3. 東京案内
代表的な東京観光

2.1. 読み上げと文章のリンク

日本語文章を読み上げ、対応する日本語と英訳をアニメーションで表示するフラッシュ教材をまづ作成した。



これによって日本語を聞きながら、文章を目で追うことが容易になり、必要に応じて英文を参照することが可能になった。再生・巻戻しも比較的容易に行える。

2.2. 写真の連続表示

ラッシュアワーの情景を複数の写真を連続表示するフラッシュアニメーションによって表示した。本文の記述をマルチメディア教材で補足する点で効果がある。



2.3. 写真のアニメーションと音声

写真に吹き出しを入れ、会話音声を再生し、文法的な注釈を加えた。

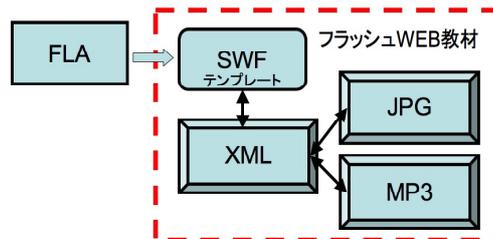


*「そ」「そ」は男性が使う終助詞ですが、若い女性はちょっとジョークをこめた感じで使うことがあります。話手が親しい場合に限られます。

男言葉・女言葉

3. フラッシュ WEB 教材

JPSOC.NET では複数のフラッシュ教材を直接フラッシュプログラムを編集して制作した。したがってフラッシュプログラムの作成技術がないと制作や編集が行えなかった。今回制作したフラッシュ WEB 教材は、SWF テンプレート、JPG 画像、MP3 音声、XML テキストによって構成される。



SWF テンプレートは、Adobe 社の Flash8 によって FLA ファイルを作成し、それから対応 OS やフラッシュリーダーのバージョンに応じた SWF ファイルを書き出したものである。筆者らが制作したフラッシュ WEB 教材は、フラッシュプログラムによって構成される SWF ファイルの外にフォルダを設けて外部ファイルの読み込みを行っている。この読み込み手順を XML テキストにまとめることにより、同一の SWF テンプレートで別の授業に適用する事が可能になる。

XML テキストファイルは、JPG フォルダと MP3 フォルダに含まれるファイルをフラッシュプログラムの求めに応じて供給するものである。XML を使う利点は、WEB 教材の内容を元のフラッシュドキュメント (FLA ファイル) を修正することなく更新できる点である。テキスト形式の XML ファイルを更新するだけで、スライドのタイトルを別のものにしたり、スライドの表示順序を変えたりすることができる。

MP3 ファイルは再生時間によってファイル容量が異なる。フラッシュプログラムは、この MP3 ファイルの切り替えに合わせて、同一ファイル名の JPG 画像を表示する。このようにフラッシュ WEB 教材では、MP3 形式の音声の長さに応じて JPG 画像の表示時間が決定される。この関係を使って、講師の発声に続いて受講者が発声する語学学習などへの適用が可能となる。